

破傷風・ジフテリア・無細胞百日咳混合（Tdap）ワクチン

商品名：ブーストリクス

Tdapワクチンは、破傷風、ジフテリア、百日咳に対する予防効果をもたらします。

目的

Tdapワクチンは次の感染症への免疫を強化します。

- ・破傷風
- ・ジフテリア
- ・百日咳

破傷風は傷口から侵入した破傷風菌が毒素を放出することで、筋肉が引きつるなど、特有の症状が出る病気です。一旦発症すると死亡率が高く、危険な病気です。破傷風菌は土壌中に広く分布しており、小さな傷からも感染します。特効薬はなく、ワクチンで予防することが有効です。

ジフテリアはジフテリア菌による上気道の感染症で、重症化すると、呼吸困難、心不全、呼吸筋麻痺などにより死亡することがあります。日本では20年以上、ジフテリア感染者の報告はありませんが、世界的には流行している地域もあり、海外渡航時または渡航者からの輸入感染に備えるべく免疫をつけておくことが重要です。

百日咳は百日咳菌による咳を主体とした気道感染症で、乳児がかかると呼吸不全などで命に関わる可能性があります。一度罹っても終生免疫が得られないため、何度でも百日咳に罹る可能性があり、乳児のいる家族や乳児と関わる仕事に就いている人は、免疫をつけておくのが望ましい感染症です。

対象者

小児用の三種混合ワクチンは乳幼児に適した分量で設計されており、そのまま成人に使用した場合、十分な追加免疫が得られない、または副反応が強く出る可能性があります。Tdapは、成人に適した免疫効果と安全性のバランスを考慮して調整されたワクチンです。すべての思春期・成人に百日咳含有ワクチンの追加接種が望ましく、とくに乳児に接触する可能性のある子どもや成人（妊婦・その家族）、医療従事者には推奨されることがあります。また、米国の留学の際は留学先から接種を推奨されることがあります。

接種不相当者

Tdapワクチンやその他の破傷風、ジフテリア、百日咳ワクチンによる強いアレルギー症状（アナフィラキシーなど）を起こしたことがある場合以外に禁忌はありません。

破傷風・ジフテリア・無細胞百日咳混合（Tdap）ワクチン

商品名：ブーストリクス

接種方法

Tdapワクチンは上腕（三角筋）に筋肉注射で接種します。
米国では、通常、学童または成人で1回追加接種します。
妊娠中においては、妊娠27～36週の間には1回接種することが推奨されています。

他のワクチンの同時接種

他のワクチンと同時接種可能です。
また、他の生ワクチンや不活化ワクチンとの接種間隔に制限はありません。

副反応

他のワクチンと同様に、痛み、赤み、腫れが一般的な副反応であり、重篤な副作用が起こることは極めて稀です。現在までに、このワクチンによる妊婦や乳児へのリスク増加は報告されていません。

有効性

接種後1年以内では、成人における百日咳の発症を70%程度予防できますが、4年後には25～30%程度に効果が落ちるとされています。
妊娠27週から36週の間にはTdapを接種すると、生後2か月未満の乳児の百日咳リスクが78%低下し、百日咳による入院を90%防ぐという報告があります。

破傷風・ジフテリア・無細胞百日咳混合（Tdap）ワクチン

商品名：ブーストリクス

輸入ワクチンについて

海外には種々の感染症に対するワクチンがありますが、その中には日本で認可されていないものもあります。ブーストリクスはそのようなワクチンのひとつです。大阪大学医学部附属病院の感染症内科外来では、当院の未承認新規医薬品等診療審査部による審議で承認されたワクチンを輸入して提供しています。

ブーストリクスは海外で安全性と有効性の実績があり、世界で標準的に使用されているワクチンです。ワクチンを含むすべての医薬品には、重篤な副反応が起きる可能性があります。そのような副反応に対して治療が必要な場合は、健康保険による保険診療で対応いたします。ただし、国内で承認されているワクチンの場合、厚生労働省の審査で接種による重篤な副反応と認められた場合、「予防接種健康被害救済制度」または「医薬品副作用被害救済制度」による補償が受けられますが、未承認ワクチンはこの補償の対象になりません（輸入代行業者による補償は受けられます）。

参考

<https://www.cdc.gov/pertussis/vaccines/types.html>

<https://www.cdc.gov/pertussis/vaccines/tdap-vaccination-during-pregnancy.html>